

スポーツ指導者の性別が子どものスポーツ実施に与える影響について  
—ソフトボールクラブの女子児童がもつスポーツ指導者へのイメージに着目して—

佐藤 馨<sup>1)</sup>

The Influence of Coach Gender in Children's sports: Impression  
of the coach by softball club girls

Kei SATO

Abstract

The purpose of this investigation was to explore the influence of coach gender in children's sports. The investigation subjects were 114 girls aged between 8 and 12 who belong to 8 teams in one softball club in Shiga prefecture.

The girls showed a tendency to evaluate the female coach by the items “easy to talk to”, “provides encouragement”, and “accepting of the female coach”, indicating receptivity and geniality. On the other hand, the difference is not observed by gender in the item that shows “leadership”, and it has been understood that the girls did not underestimate the female coach's leadership compared with the male coach. This suggests that the existence of not only the male but also the female coach is necessary for the child's effective sports instruction. Even with the female coach's experience with the girls, the superiority of the female coach is still less regarded than the male coach. This seems to influence the women's role in sports instruction. Generally, female's coaching careers, have been relatively short in the past but the future of their coaching careers are important for future child instruction.

However, the existence of female coaches with longer coaching careers who become role models will be a source of motivation that improve girl's confidence and potential ability. It is necessary to improve female's coaching skills and careers in order to effectively instruct children in the future.

キーワード：スポーツ指導者，女性，子ども，スポーツ実施

---

1) 生涯スポーツ学科

## I はじめに

近年、スポーツの場面で活躍する女子選手を目にする機会が多くなった。これは女子選手のオリンピックにおける参加率とも関連することは容易に推測できる。オリンピック開催当時から約50年間、女子選手のそれは10%以下であった。しかしながら、100年後の2008年北京オリンピック大会では女子選手は42%を占め、4年後の2012年ロンドン大会では女子選手が男子選手を上回った（JOC発表では、男子137名、女子156名）、さらに次回リオデジャネイロ大会では女子選手の活躍が期待できると言えよう。

一方、そうした女子選手を裏で支えるスポーツ指導者の男女比はというと、残念ながら選手に及ばないのが実情である。例えば、2004年のJOC調査によれば加盟団体における登録スポーツ指導者の男女比はおよそ8対2であり、圧倒的に男性スポーツ指導者が多かった。さらにこうした状況はJOC加盟団体のスポーツ指導者に限られたことではなく、2009年の滋賀県下の調査においても、JOC同様、男性スポーツ指導者の割合が多く、男性約8割、女性約2割という結果であった（佐藤, 2009）。このように女子選手の活躍が目覚ましい反面、女性スポーツ指導者の比率が伸び悩むのはなぜであろうか。

イギリスのトップアスリートを指導する女性を対象にした研究によれば、本来、スポーツ指導者（コーチ）の仕事が女性を不利な状況に置くように出来ていると指摘し、女性スポーツ指導者数が増加しない理由として「少ない指導機会」「競技団体からの支援の少なさが引き起こす疎外感」「女性に対するスポーツ指導者教育システムの欠如」をあげている（Norman, 2008）。さらにNorman (2008)は、女性スポーツ指導者が高いレベルを目指す場合、レベルが上がれば上がる程その道筋が狭まり、女性は重要なポジションから除外されることを明らかにした。すなわ

ち、女性がトップアスリートを教えるスポーツ指導者を志したとしても、現在の環境ではそれを実現するのは極めて困難であると言える。

他方、女性スポーツを研究するタッカー女性スポーツ研究センター（Tucker Center for Research on Girls and Women in Sport）では、女性のスポーツ指導者数を増やすことの必要性を3つあげている。その3つとは、①女性が権力をもつ地位に就くことで子どもや若者により効果をもたらす、②リーダーシップの地位にある女性は変革を起す可能性がある、③生涯を通じてスポーツに関わることで女性の自己充足に繋がるであった。中でも①女性が権力のある地位に就くことで、子どもや若者に良い効果をもたらす、についてMessner (2009)は、現代の若い男性や男子児童にとって女性の同僚・同級生の存在は当たり前であるが、そこからさらに女性のリーダーを自然に受容するようになるには女性リーダーの元で多様な経験をする必要があること、また若い女性や女子児童にとってロールモデルとなる女性リーダーの存在は、自信の獲得や自分の潜在能力の実感に繋がるが、それが不在であると彼女達はスポーツにおける自分のキャリアを諦める傾向があることを指摘している。さらに女性スポーツ指導者は、女子選手に対して指導の道を勧める傾向があることも指摘されており（Werthner, 2005）、このことから若い女性や女子児童にとって女性からスポーツ指導を受けること、女性がスポーツを指導する姿を目にすることは、今後女性スポーツ指導者を増やすために非常に重要であると言える。

女性のリーダーが不足する原因の一つとして、女性がリーダーシップを執ることへの周囲の抵抗感が関連していると指摘されている（Eagly and Carli, 2007）。こうした状況はスポーツ界においても同様で（Kilty, 2006）、女性スポーツ指導者に対する周りの印象やイメージも女性スポーツ指導者を増員する環境

確保のためには重要な要素だと言える。そこで本研究は、女子ソフトボールクラブに所属する女子児童を対象に、子どもがもつスポーツ指導者の性別に対するイメージが児童のスポーツにどのような影響を与えているのか検討することを目的とした。なお、本研究におけるスポーツ指導者とは、スポーツを指導するコーチと同義語で用いる。

## Ⅱ 研究方法

1. 調査対象：滋賀県下のスポーツ少年団に所属している女子ソフトボールクラブ8チームの114名を調査対象とした。

本研究においてソフトボールを対象としたのは、ソフトボール日本代表チームの指導者が女性であり、比較的女性のスポーツ指導者に抵抗感が少ない環境であると考えたからである。

2. 調査期間：2008年11月11日～同年11月26日の14日間に渡り、期間中に調査票の配付および回収を行なった。

3. 調査方法：各クラブの責任者に調査票を渡し、責任者から女子児童に調査表の配付・回収を行なう託送調査法を用いた。回答は対象児童114名全員から得られた。

4. 調査項目：①女子児童の年齢、②ソフトボール開始時期、③ソフトボールを始めたきっかけ、④スポーツ指導者に対する児童の捉え方や考え方（男性スポーツ指導者、女性スポーツ指導者両方について）、⑤きょうだいの有無、⑥きょうだいの数、⑦現在のスポーツ指導者の性別、である。

本研究では、スポーツ指導者に対するイメージをRobertsら（1984）が開発した「スポーツ指導者に対するイメージ尺度」を用いて測定した。

## Ⅲ 結果および考察

### 1. サンプルの属性

表1には本研究におけるサンプルの属性を示した。サンプルの平均年齢は10.34歳であ

表1 サンプルの属性

平均年齢	10.34	歳
きょうだいの平均人数	2.58	人
ソフトボール開始年齢	8.55	歳
きょうだいの有無 (n=114)		
	いる	95.6 %
	いない	4.4 %
きょうだいの構成 (n=114)	複数回答	
	兄	40.9 %
	姉	34.8 %
	弟	35.7 %
	妹	27.8 %

り、およそ4年生から5年生を中心にクラブメンバーが構成されていると言える。またサンプルのきょうだいの有無についてみると、「いる」と回答している者が圧倒的に多く9割以上を占めていた。きょうだいの人数について見ると、平均2.58人であった。またきょうだいの構成について見ると、兄を持つ者が40.9%、姉を持つ者が34.8%、弟を持つ者が35.7%、妹を持つ者が27.8%であった。このことから、本研究の対象は、一人っ子がほとんど見られず、概ね2人きょうだいが多いことが分かった。

### 2. ソフトボール開始時期や始めたきっかけ

被調査者である女子児童がソフトボールを開始した年齢についてみると平均年齢は8.55歳であり、およそ小学校2年生から3年生からそれを始めていると考えられる。これをサンプルの平均年齢から差し引くと、ソフトボール歴は約2年ということになり、経験年数はそれほど長くないと言える（表1）。

ソフトボールを始めたきっかけについて聞いたところ、「友達がやっていたから」と回答する者が最も多く、約50%を占めた。次いで多かったのが「きょうだいがやっていたから」の17.5%、以下、「その他」14.1%、「親がやっていたから」8.8%、「ソフトボール教室に参加して」7.9%、「テレビ・雑誌をみて」2.6%と続いた（表2）。きっかけについては、親やきょうだいの影響よりも友人のそれ

の方が大きいことが分かった。またきっかけの「その他」の回答には「監督・コーチに誘われて」が散見された。

### 3. 女子児童からみた性別によるスポーツ指導者へのイメージ

女子児童が所属するクラブのスポーツ指導者については、圧倒的に男性だけで構成されるクラブが多く(75%)、残りのクラブは男女両方のスポーツ指導者によって構成されていた(表3)。

スポーツ指導者の性別の違いによる捉え方や考え方を評価するため、Roberts (1984)の作成した「スポーツ指導者に対するイメージ評価尺度」を用いた(表4)。項目ごとに「とてもあてはまる(1点)」「あてはまる(2点)」「どちらでもない(3点)」「あてはまら

ない(4点)」「まったくあてはまらない(5点)」の5段階評価で回答を求めた。なお、評価尺度11項目のうち「2 男(女)性コーチがグラウンドにいとプレーに集中できないと思う」「8 男(女)性のコーチからの罰には耐えられないと思う」「11 男(女)性コー

表2 ソフトボールを始めたきっかけ (n=114)

親がやっていたから	8.8%
きょうだいやっていたから	17.5%
テレビを見て	2.6%
友達がやっていたから	49.1%
ソフトボール教室に参加して	7.9%
その他	14.1%

表3 所属クラブのスポーツ指導者の性別

男性コーチだけがいるクラブ (n=86)	75.4%
男性、女性両方コーチがいるクラブ (n=28)	24.6%

表4 性別によるスポーツ指導者へのイメージ評価尺度

	項目
1	コーチにするなら男性コーチが良いと思う コーチにするなら女性コーチが良いと思う
2※	男性コーチがグラウンドにいとプレーに集中できないと思う 女性コーチがグラウンドにいとプレーに集中できないと思う
3	男性コーチがいるといつもより良いプレーができると思う 女性性コーチがいるといつもより良いプレーができると思う
4	これから男性コーチに居て欲しいと思う これから女性コーチに居て欲しいと思う
5	男性コーチに怒られても、素直に受け取ることができると思う 女性コーチに怒られても、素直に受け取ることができると思う
6	男性コーチは良いコーチであると思う 女性コーチは良いコーチであると思う
7	男性コーチの言うことなら聞けると思う 女性コーチの言うことなら聞けると思う
8※	男性コーチのからの罰には耐えられないと思う 女性コーチのからの罰には耐えられないと思う
9	男性コーチはとても話しやすいと思う 女性コーチはとても話しやすいと思う
10	男性コーチはよく褒めてくれると思う 女性コーチはよく褒めてくれると思う
11※	男性コーチが私に大きい声を出すと腹が立つと思う 女性コーチが私に大きい声を出すと腹が立つと思う

※は、逆転項目

チが私に大きい声を出すと腹が立つと思う」の3つについては逆転項目であるため、意味としては「2 男(女)性コーチがグラウンドにいてプレーに集中できる」「8 男(女)性のコーチからの罰には耐えられると思う」「11 男(女)性コーチが私に大きい声を出すと腹が立たないと思う」と文章を置き換え、分析を行なった。

表5は、女子児童のスポーツ指導者に対するイメージについて男性スポーツ指導者、女性スポーツ指導者それぞれのイメージについ

て分析した。結果として、「5 男(女)性コーチに怒られても、素直に受け取ることができると思う」(t(113)=3.23, p<.05), 「9 男(女)性コーチはとても話しやすいと思う」(t(113)=9.89, p<.001), 「10 男(女)性コーチはよく褒めてくれると思う」(t(113)=5.12, p<.001), 「11 男(女)性コーチが私に大きい声を出すと腹が立つと思う」(t(113)=4.46, p<.001)の4項目について有意な差が見られた。いずれの項目も女性スポーツ指導者に対する評価が高く、「話しやすい」

表5 女子児童からみた性別によるスポーツ指導者へのイメージ 平均値および標準偏差

	項目	n	平均値	標準偏差	t 値
1	コーチにするなら男性コーチが良いと思う	114	2.63	.88	0.74
	コーチにするなら女性コーチが良いと思う	114	2.54	1.02	
2※	男性コーチがグラウンドにいてプレーに集中できないと思う	114	2.06	.87	0.09
	女性コーチがグラウンドにいてプレーに集中できないと思う	114	2.07	.98	
3	男性コーチがいるといつもより良いプレーができると思う	114	2.95	.93	1.12
	女性性コーチがいるといつもより良いプレーができると思う	114	2.85	.91	
4	これから男性コーチに居て欲しいと思う	114	2.75	.91	0.07
	これから女性コーチに居て欲しいと思う	114	2.75	.96	
5	男性コーチに怒られても、素直に受け取ることができると思う	114	2.81	.99	3.23 *
	女性コーチに怒られても、素直に受け取ることができると思う	114	2.47	.91	
6	男性コーチは良いコーチであると思う	114	2.38	.81	1.13
	女性コーチは良いコーチであると思う	114	2.48	.97	
7	男性コーチの言うことなら聞けると思う	114	2.67	.85	1.25
	女性コーチの言うことなら聞けると思う	114	2.55	.86	
8※	男性コーチのからの罰には耐えられないと思う	114	3.04	1.10	1.34
	女性コーチのからの罰には耐えられないと思う	114	2.89	.89	
9	男性コーチはとても話しやすいと思う	114	3.13	1.01	9.69 ***
	女性コーチはとても話しやすいと思う	114	1.85	.89	
10	男性コーチはよく褒めてくれると思う	114	2.82	1.00	5.12 ***
	女性コーチはよく褒めてくれると思う	114	2.23	.95	
11※	男性コーチが私に大きい声を出すと腹が立つと思う	114	3.06	1.09	4.46 ***
	女性コーチが私に大きい声を出すと腹が立つと思う	114	2.58	.99	

※は、逆転項目      \*\*\*:p<.001      \*:p<.05

表6 男性スポーツ指導者だけのクラブに所属する女子児童のスポーツ指導者へのイメージ  
平均値および標準偏差

	項目	n	平均値	標準偏差	t 値
1	コーチにするなら男性コーチが良いと思う	86	2.62	.870	0.298
	コーチにするなら女性コーチが良いと思う	86	2.57	1.080	
2※	男性コーチがグラウンドにいるとプレーに集中できないと思う	86	2.02	.907	0.297
	女性コーチがグラウンドにいるとプレーに集中できないと思う	86	2.06	1.033	
3	男性コーチがいるといつもより良いプレーができると思う	86	2.98	.970	0.767
	女性性コーチがいるといつもより良いプレーができると思う	86	2.90	.970	
4	これから男性コーチに居て欲しいと思う	86	2.83	.897	0.081
	これから女性コーチに居て欲しいと思う	86	2.81	1.000	
5	男性コーチに怒られても、素直に受け取ることができると思う	86	2.84	.992	2.941
	女性コーチに怒られても、素直に受け取ることができると思う	86	2.48	.942	
6	男性コーチは良いコーチであると思う	86	2.47	.822	0.824
	女性コーチは良いコーチであると思う	86	2.56	1.024	
7	男性コーチの言うことなら聞けると思う	86	2.78	.873	1.649
	女性コーチの言うことなら聞けると思う	86	2.59	.912	
8※	男性コーチのからの罰には耐えられないと思う	86	3.00	1.106	1.191
	女性コーチのからの罰には耐えられないと思う	86	2.86	.842	
9	男性コーチはとても話しやすいと思う	86	3.17	1.031	8.096 ***
	女性コーチはとても話しやすいと思う	86	1.86	.922	
10	男性コーチはよく褒めてくれると思う	86	2.87	1.003	4.782 ***
	女性コーチはよく褒めてくれると思う	86	2.22	.987	
11※	男性コーチが私に大きい声を出すと腹が立つと思う	86	3.26	1.020	4.748 ***
	女性コーチが私に大きい声を出すと腹が立つと思う	86	2.65	.955	

※は、逆転項目 \*\*\*:p<.001

「褒める」「素直に受け取る」といった受容や寛容さを評価する傾向があった。一方、日常の練習に起因する指導者の力量に関連する評価（以下、指導力とする）を示す項目については特にスポーツ指導者の性別によって違いが見られず、女性の指導力不足を女子児童は感じていないことが分かった。

#### 4. 所属クラブ別の女子児童からみた性別によるスポーツ指導者へのイメージ

ここでは男性スポーツ指導者だけのクラブ、男女両方のスポーツ指導者のいるクラブそれぞれで女子児童のスポーツ指導者に対するイメージを分析した。その結果、男性スポーツ指導者だけのクラブに所属する女子児童では、「9 男(女)性コーチはとても話しやすいと思う」(t(85)=8.09, p<.001), 「10 男(女)性コーチはよく褒めてくれると思う」

表7 男女のスポーツ指導者のいるクラブに所属する女子児童のスポーツ指導者へのイメージ  
平均値および標準偏差

	項目	n	平均値	標準偏差	t 値
1	コーチにするなら男性コーチが良いと思う	28	2.68	.905	1.070
	コーチにするなら女性コーチが良いと思う	28	2.43	.836	
2※	男性コーチがグラウンドにいるとプレーに集中できないと思う	28	2.18	.723	0.441
	女性コーチがグラウンドにいるとプレーに集中できないと思う	28	2.11	.832	
3	男性コーチがいるといつもより良いプレーができると思う	28	2.86	.803	1.072
	女性性コーチがいるといつもより良いプレーができると思う	28	2.71	.713	
4	これから男性コーチに居て欲しいと思う	28	2.54	.922	0.000
	これから女性コーチに居て欲しいと思う	28	2.54	.793	
5	男性コーチに怒られても、素直に受け取ることができると思う	28	2.71	.976	1.317
	女性コーチに怒られても、素直に受け取ることができると思う	28	2.46	.838	
6	男性コーチは良いコーチであると思う	28	2.11	.737	0.891
	女性コーチは良いコーチであると思う	28	2.25	.752	
7	男性コーチの言うことなら聞けると思う	28	2.32	.670	0.827
	女性コーチの言うことなら聞けると思う	28	2.43	.690	
8※	男性コーチのからの罰には耐えられないと思う	28	3.14	1.113	0.633
	女性コーチのからの罰には耐えられないと思う	28	2.96	1.036	
9	男性コーチはとても話しやすいと思う	28	3.00	.943	5.719 ***
	女性コーチはとても話しやすいと思う	28	1.82	.819	
10	男性コーチはよく褒めてくれると思う	28	2.64	.989	1.890 †
	女性コーチはよく褒めてくれると思う	28	2.25	.844	
11※	男性コーチが私に大きい声を出すと腹が立つと思う	28	2.46	1.105	0.570
	女性コーチが私に大きい声を出すと腹が立つと思う	28	2.36	1.062	

※は、逆転項目 †:0.05<p<.10 \*\*\*:p<.001

(t (85) =4.78, p<.001), 「11 男(女)性コーチが私に大きい声を出すと腹が立つと思う」(t (85) =4.74, p<.001) の3項目について有意な差が見られた。どの項目も女性のスポーツ指導者に好意的であった(表6)。この結果は、先に示した女子児童全体の評価とほぼ同様の結果を示し(表5)、ここでも女性のスポーツ指導者に対して気安さや優しさを評価する傾向が見られた。また指導力についても同様で、女性のスポーツ指導者の指導力

を低く評価する傾向は見られなかった。

男女両方のスポーツ指導者のいるクラブに所属する女子児童は、「9 男(女)性コーチはとても話しやすいと思う」(t (27) =4.74, p<.001) の1項目についてのみ有意な差が見られ、女性のスポーツ指導者を高く評価していた(表7)。表6の男性スポーツ指導者だけのクラブに所属する女子児童の結果と比べると、特にスポーツ指導者の性別によってイメージに差はなく、このことは女子児童が実

表8 所属クラブ別女子児童からみた男性スポーツ指導者へのイメージ 平均値および標準偏差

	項目	指導者の性別	n	平均値	標準偏差	t 値
1	コーチにするなら男性コーチが良いと思う	男性コーチから指導	86	2.62	0.87	0.33
		男女両コーチから指導	28	2.68	0.90	
2※	男性コーチがグラウンドにいるとプレーに集中できないと思う	男性コーチから指導	86	2.02	0.91	0.82
		男女両コーチから指導	28	2.18	0.72	
3	男性コーチがいるといつもより良いプレーができると思う	男性コーチから指導	86	2.98	0.97	0.59
		男女両コーチから指導	28	2.86	0.80	
4	これから男性コーチに居て欲しいと思う	男性コーチから指導	86	2.83	0.90	1.48
		男女両コーチから指導	28	2.54	0.92	
5	男性コーチに怒られても、素直に受け取ることができると思う	男性コーチから指導	86	2.84	0.99	0.57
		男女両コーチから指導	28	2.71	0.98	
6	男性コーチは良いコーチであると思う	男性コーチから指導	86	2.47	0.82	2.05 *
		男女両コーチから指導	28	2.11	0.74	
7	男性コーチの言うことなら聞くことができると思う	男性コーチから指導	86	2.78	0.87	2.54 **
		男女両コーチから指導	28	2.32	0.67	
8※	男性コーチからの罰には耐えられないと思う	男性コーチから指導	86	3.00	1.11	0.59
		男女両コーチから指導	28	3.14	1.11	
9	男性コーチはとても話しやすいと思う	男性コーチから指導	86	3.17	1.03	0.79
		男女両コーチから指導	28	3.00	0.94	
10	男性コーチはよく褒めてくれると思う	男性コーチから指導	86	2.87	1.00	1.05
		男女両コーチから指導	28	2.64	0.99	
11※	男性コーチが私に大きい声を出すと腹が立つと思う	男性コーチから指導	86	3.26	1.02	3.50 ***
		男女両コーチから指導	28	2.46	1.10	

※は、逆転項目 \*: $p<0.05$  \*\*: $p<0.01$  \*\*\*: $p<0.001$

際に女性スポーツ指導者に指導を受けた経験に起因すると考えられる。換言すれば、男性スポーツ指導者からの指導経験しか持たない場合、女性スポーツ指導者に対する評価は想像でしかないのは当然である。しかしながら、その想像において女性スポーツ指導者の評価はそれほど低くはないことが分かった。一方、女性スポーツ指導者の指導経験を持っている場合、実際に女性スポーツ指導者であっても褒めたり、大声を出したりという場面を体験していることになる。すなわち、男女両方のスポーツ指導者がいるクラブに所属する女子児童は、男性のスポーツ指導と女性のそれとを比較した上で評価しており、現実の指導現場を踏まえた結果だと推測する。

表6, 7の結果において重要なことは、児童期にある子どものスポーツ指導において、

特に男性が優位であるというではなく、むしろ気軽さや親しみやすさの点で言えば女性の方が指導に適していることを示唆している。

#### 5. 女子児童からみた性別によるスポーツ指導者へのイメージにおける所属クラブ比較

ここでは男性スポーツ指導者、女性スポーツ指導者それぞれの女子児童のイメージを所属クラブで比較した。表8は、男性スポーツ指導者に対する女子児童のイメージを所属クラブで比較した。その結果、「6 男性コーチは良いコーチであると思う」( $t(85) = 4.74$ ,  $p < 0.001$ ), 「7 男性コーチの言うことなら聞くことができる」( $t(85) = 4.74$ ,  $p < 0.001$ ), 「11 男性コーチが私に大きい声を出すと腹が立つと思う」( $t(85) = 4.74$ ,  $p < 0.001$ )の3

表9 所属クラブ別女子児童から見た女性スポーツ指導者へのイメージ 平均値および標準偏差

	項目	指導者の性別		n	平均値	標準偏差	t 値
		男性	女性				
1	コーチにするなら女性コーチが良いと思う	男性コーチから指導	女性コーチから指導	86	2.57	1.08	0.63
		男女両コーチから指導	男女両コーチから指導	28	2.43	0.84	
2※	女性コーチがグラウンドにいるとプレーに集中できないと思う	男性コーチから指導	女性コーチから指導	86	2.06	1.03	0.25
		男女両コーチから指導	男女両コーチから指導	28	2.11	0.83	
3	女性コーチがいるといつもより良いプレーができると思う	男性コーチから指導	女性コーチから指導	86	2.90	0.97	0.91
		男女両コーチから指導	男女両コーチから指導	28	2.71	0.71	
4	これから女性コーチに居て欲しいと思う	男性コーチから指導	女性コーチから指導	86	2.81	1.00	1.34
		男女両コーチから指導	男女両コーチから指導	28	2.54	0.79	
5	女性コーチに怒られても、素直に受け取ることができると思う	男性コーチから指導	女性コーチから指導	86	2.48	0.94	0.06
		男女両コーチから指導	男女両コーチから指導	28	2.46	0.84	
6	女性コーチは良いコーチであると思う	男性コーチから指導	女性コーチから指導	86	2.56	1.02	1.47
		男女両コーチから指導	男女両コーチから指導	28	2.25	0.75	
7	女性コーチの言うことなら聞くことができると思う	男性コーチから指導	女性コーチから指導	86	2.59	0.91	0.87
		男女両コーチから指導	男女両コーチから指導	28	2.43	0.69	
8※	女性コーチからの罰には耐えられないと思う	男性コーチから指導	女性コーチから指導	86	2.86	0.84	0.53
		男女両コーチから指導	男女両コーチから指導	28	2.96	1.04	
9	女性コーチはとても話しやすいと思う	男性コーチから指導	女性コーチから指導	86	1.86	0.92	0.20
		男女両コーチから指導	男女両コーチから指導	28	1.82	0.82	
10	女性コーチはよく褒めてくれると思う	男性コーチから指導	女性コーチから指導	86	2.22	0.99	0.14
		男女両コーチから指導	男女両コーチから指導	28	2.25	0.84	
11※	女性コーチが私に大きい声を出すと腹が立つと思う	男性コーチから指導	女性コーチから指導	86	2.65	0.96	1.38
		男女両コーチから指導	男女両コーチから指導	28	2.36	1.06	

※は、逆転項目

項目において有意差が見られ、いずれも男女両方のスポーツ指導者のいるクラブに所属する女子児童が男性スポーツ指導者に対して好意的な評価をしていることが分かった。

表9では、女性スポーツ指導者に対する女子児童のイメージを所属クラブで比較した。その結果、すべての項目において特に有意な差が認められなかった。

表8、表9の結果から、男性のスポーツ指導者に関して言えば、男女両方のスポーツ指導者の経験が男性のスポーツ指導者の優位性を高めるよう働いたと考えられる。一方、女性のスポーツ指導者に関して言えば、男女両方のスポーツ指導経験が女性のスポーツ指導の優位性を高める結果に繋がらなかったと言える。このことは、実際のスポーツ指導の場面における女性の役割が影響していると推測

する。例えば、学齢期にある子どものスポーツ指導者の実態を明らかにした研究によれば(熊安, 1996)、女性のスポーツ指導者の多くは競技実績が低く、そのため初心者レベルの指導にしか携われていないと指摘している。本研究ではスポーツ指導者の実績について検討していないため、この点について明らかにすることはできない。しかしながら、子どものスポーツ指導を担っている女性の低い実績は、女子児童からすれば女性スポーツ指導者への評価に影響すると思われる。Messnar (2009)の指摘するように、女子児童にとってロールモデルとなる女性スポーツ指導者の存在は自信の獲得や自分の潜在能力の実感に繋がるため、女性スポーツ指導者の存在は非常に重要であることには間違いないであろう。

#### Ⅳ まとめ

本研究の対象である女子児童は、概ね2人きょうだいで、ソフトボール経験は2年程度、始めたきっかけは、友人の影響が大きいという傾向が見られた。特にきっかけについては、友人の存在が大きいことから、気軽さや親しみやすさは重要な要素であると言える。例えば女子児童の女性スポーツ指導者に対するイメージとして「話しやすさ」が常に高評価であることからすれば、女性スポーツ指導者の存在がソフトボールをより身近に感じられる契機につながると思われる。

また、女子児童の女性スポーツ指導者に対する評価は、「話やすい」「褒める」「素直に受け取る」といった受容や優しさを評価する傾向にあった。一方、スポーツ指導者としての指導力を表わす項目については性差が見られず、女子児童が男性の指導と比較して女性のそれを低く見ていないことが分かった。これは、子どものスポーツ現場において男性だけでなく女性の指導者の存在が必要であることを示唆している。

女子児童において男女両方によるスポーツ指導者の経験は、男性のスポーツ指導者の優位性を高めるが、女性のスポーツ指導者の優位性を高める結果に繋がらなかった。このことは、実際のスポーツ指導の場面における女性の役割が影響しているのではないかと考えられる。子どもを指導する際、スポーツの指導実績は重要であり、この点について女性の実績の程度が問題になるであろう。本研究ではスポーツ指導の実績について明らかにするに至らず今後の課題とする。しかしながら、女子児童にとってスポーツ指導の実績を兼備し、その上でロールモデルとなる女性スポーツ指導者の存在は、彼女達の自信や潜在能力を高めるきっかけに繋がるため、その存在は重要であることには違いない。

今後、さらに子どものスポーツ指導に携わる女性のスポーツ指導者を増やすためには、

女性の指導技術を高める必要があるといえる。というのも、男性のスポーツ指導者と比べても劣らない確かな指導力を身につけることができれば、子どものスポーツ指導において充分女性スポーツ指導者で対応可能と考えるからである。

#### 引用文献

- Eangly, A., and Carli, L. (2007) Women and the labyrinth of leadership. *Harvard Business Review*, September, 62-71
- 公益法人日本オリンピック委員 <http://www.joc.or.jp/games/olympic/london/japan/>
- 佐藤馨, 小笠原悦子, 佐橋由美 (2009) スポーツ団体における女性スポーツの普及・推進に向けた取組みと活動実態に関する研究—滋賀県スポーツ団体を事例として— *びわこ成蹊スポーツ大学研究紀要* 第6号 75-81
- Kilty, K. (2006) Women in coaching. *The Sport Psychologist*, 20(2), 222-234
- 熊安貴美江, 中田順造, 山本章雄, 吉武信二 (1996) スポーツ指導者の活動実態と意識に関する調査研究—大阪府内の有資格スポーツ指導者の男女差に着目して— *大阪女子大学紀要* 第33号45-65
- Messner, M. (2009) Including more women coaches in youth sport: Why it matters. Retrieved June 17, 2009, from [#1xzzoI9yPrCLr&D](http://www.momsteam.com/getting-more-women-coaches-in-youth-sports-why-it-matters)
- Norman, L. (2008) The UK coaching system is failing women coaches. *International Journal of Sports Science and Coaching*, 3(4), 447-464
- Robert, W., Margie, R., & Allen, J. (1984) Attitude of Male and Female Athletes Toward Male and Female Coaches. *Journal of Sport Psychology*, 6, 448-453
- Werthner, P. (2005) Making the case: Coaching as a viable career path for women. *Canadian Journal for Women in Coaching*, 5(3). Retrieved March 31, 2009, from <http://www.coach.ca/WOMEN/e/journal/may2005/index>.

htm

Tucker Center for Research on Girls and Women in Sport. (2009, Spring) Wanted: Female coaches at all level of sport. Tucker Center, University of Minnesota newspaper.